

# 【ねがいましては】

令和3年3月25日

KYOWA SCHOOL

第364号

「ひとは〇〇〇〇の動物だ」

この〇〇〇〇の中に何を連想されますか。〇〇〇〇でも結構です。私はある確信を得た中で、ある生徒さんと話をしました。そして出てくる出てくる、新発見でした。「しゃべ」る動物、「あやま」る動物、「あき」る動物、「いば」る動物、「さぼ」る動物、「しか」る動物、「まね」る動物……。

で、私の確信は「くらべ」る動物です。

他の動物は比べてみて、「いいなー」「うらやましいなー」などといった感情を持たないと思うのです。確かに野生動物の中には、メスを獲得するために自らを大きく見せたり戦ってみたりなど、生きるための種の保存に欠かせない戦いはあると思います。真剣な勝負の世界です。しかし、起きたときから寝るときまで、常に他を意識し比べながらの生活は送っていないのではないのでしょうか。

女性の場合、ファッションがその例なのかもしれません。個性ですね。23億分の1のスタイルです。常にすれ違う男性の目線を気にしながら歩きます。「見られている……やったー！」ちょっとご満悦？ お化粧などもその中に入るのでしょう。私にはその辺が少し分かりませんが。

学校生活に目を転じてみましょう。いつもテストが気になります。その「気になる」なかに、「くらべる」が存在しているはず。体育の授業でも、じょうずに跳び箱を跳ぶ子を前に自分の番が来ます。感情はふたつに分かれます。「よし、かっこいいところを見せてやるぞ」と、もうひとつ「どうしよう、しっばいしたら」です。これをお読みになっている方はどちらのタイプでしたか。

常に他を意識し比べているのです。自分は自分、他などどうでもいいのだ、自分らしく生きていくのだ……。などといった感情の子はいないに等しいのではないのでしょうか。大人の社会でもそれは全く変わらないと思います。特にサラリーマン世帯のご婦人方は強いのかもしれません。「あの〇〇さんのご主人、ボーナス200万いただいたそうよ。」「あの〇〇さん、最近外車を買ったんですって、800万はするそうよ。」

そして出てくるのが、「あの〇〇さんのとこの息子さん、東大合格したそうよ。」です。そのすべてがくらべから起こった会話です。で、次の感情です。「それにしても、うちの〇〇は……。」です。必ず落ちがあります。我が家は低いのです。下にあるのです。と言いますか、自らの下ばかりが気になるのです。それで時間を過ごされている方はどのくらいいるのでしょうか。政府機関に調査願いたいものです。

それではその家の子どもたちに「しあわせ」などやってくるはずがありません。まず、笑顔は少ないことが分かります。家族間の会話の中に「笑い」がたっぷりあります。とは、考えにくいです。

さて、くらべない生活を考えてみましょう。ご想像ください。

子にとっての「安心」「信頼」「しあわせ」は、くらべがないことで、ある程度達成できるのではないのでしょうか。運動会でビリだった。でも、「あんた、いい顔して走ってたよ。そんな〇〇ちゃんがお母さん好きだな。それに、あなたは他の子たちに勝ちを譲ってあげたのよ。偉いと思うわ。そんな譲り合いがたくさん集まって世の中をしあわせにしていこうと思うわ。あなたはあなたらしく走ったのだからそれで合格！」

つついとお母さんにまかれてしまう子……。そんなお母さんが大好きな子。早速いつものように大好きになった本を取り出して読みふけります。しかももう5回目です。「あなた、よく飽きないわね。」「うん、だってこの場面、何回読んでもジーンときちゃうんだ。ぼく将来、本を書いてみたいな。」「そうね、お母さんをジーンとさせてね、まってるわ。」

母子ふたりの中には、厚い信頼があるだけです。私は思います。それが当たり前です。その当たり前が今、結構見られなくなっているのではないかと……。それをつくり出している根っこが「くらべる」です。

この小さな教室では、「くらべる」がゼロです。テストなし、競争なしです。子どもたちは思い思いに真剣に取り組めます。ひとつの問題に1時間以上もかける子もいます。真剣です。それ以上の満点はあるのでしょうか。精一杯に生ききっています。それ以上何を望むのでしょうか。

しかし、そんなに精一杯の生き方をしながらも、はなれていく子がいます。原因は「成績」というくらべの象徴です。

子どもたちには、解せない象徴があります。

もし、中学2年生でありながら、初めてここへやってきた子が九九も知らなかった。当時病気で入院したことがたり、九九が不十分になってしまったのです。その子が中学校2年生の数学のテストで点数が取れるのでしょうか。それでも九九を毎日のように懸命に唱え練習しています。その姿をご家族に見ていただきたい。それが満点の生き方だというその場面をです。でも、定期テストは「0点」に近いです。結果、「ちっとも上がらないじゃない。」といっってはなれていく……。

私は「成績」というくらべを象徴するこの語彙を国語辞典から削除したいと思います。

そうすればどれだけの家族が「しあわせ」になれるか……。だから皆さん、くらべるのはやめましょう。